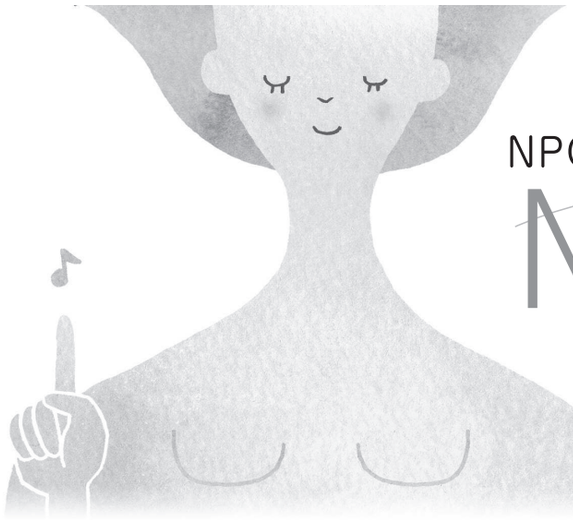


NPO法人 女性医療ネットワーク

News Letter

第37号（2018年10月発行）

発行／女性医療ネットワーク事務局
〒113-0033　東京都文京区本郷 4-1-5　石渡ビル 5F
株式会社アクセライト内　TEL：03-6801-6193
e-mail：info@cnet.gr.jp　　イラスト／カワハラユキコ　制作／あづま堂印刷（株）

特　集

現代女性の健康に関わる諸問題 院内集会

2018年6月27日、衆議院第一議員会館多目的ホールにおいて、ウィメンズ・ヘルス・アクション実行委員会（WHA）および超党派の国会議員有志主催による「現代女性の健康に関わる諸問題」院内集会が開催され、各団体代表から約280名が参加し、議論しました。たかがい恵美子参議院議員と対馬ルリ子女性医療ネットワーク理事長が司会を務めました。

■日時　2018年6月27日（水）
14:00～16:00（13:30開場）
■場所　衆議院第一議員会館1階
多目的ホール
■主催　ウィメンズ・ヘルス・アクション
実行委員会
■共催　女性医療職エンパワメント推進議員連盟
自民党看護問題対策議員連盟
■司会　対馬ルリ子氏・髙階恵美子氏

企業・団体職員や国会議員らが集まり、熱い議論が交わされた。

開会の挨拶

慶應義塾大学名誉教授　吉村泰典

当日は、ウィメンズ・ヘルス・アクション（WHA）実行委員会代表の吉村泰典慶應義塾大学名誉教授の開会の挨拶で幕開けしました。

2016年4月に、女性活躍推進法が施行されております。女性の活躍ということになりますと、まず女性が健康でなくてはなりません。また、国民一人ひとりに、女性の健康に関する正しい知識を身につけてもらうことが極めて大切です。国民に対して女性のトータルヘルスケアの重要性を認識してもらい、女性の社会のヘルスリテラシー向上が図れればいいなと考えています。

いまや企業では、経産省を中心に健康経営ということがよく言われていますが、これは成熟社会のひとつのビジネスモデルだと認識しております。医療も、これまでは病気を治す治療医学であったものが、最近では予防医学というパラダイムシフトが起こっています。女性の健康を考えるうえでも、予防医学は極めて大切だと認識しております。

今日は、様々な立場の方からの請演を拝聴したいと思っております。

「ウィメンズ・ヘルス・アクション」宣言を行った団体からの発表

これまでに9団体が「ウィメンズ・ヘルス・アクション」宣言を行っていますが、今回は8団体の代表から取り組みの紹介がありました。

①神奈川県 健康医療局 保健医療部 健康増進課

加藤康介 課長

- 神奈川県では健康寿命延伸を目指して「未病改善」に取り組んでいる
- 女性特有の健康問題については「未病女子対策」を行なっている。平成29年に県内の産婦人科医会などを中心にした「かながわ未病女子応援団」を結成し、女性の活躍を応援
- 県庁内の女性トイレに健康啓発ポスター掲示、知事をはじめ県幹部が「イクボス宣言」
- 女性の活躍推進に積極的な県内企業が「かながわ女性の活躍応援団」を結成するなど

②鳥取県 東京本部

吉井美和子 本部長

- 「子育て王国と女性活躍」を掲げ「ウィメンズ・ヘルス・アクション」を宣言
- 「日本一の子育て王国」は、出会いから妊娠・出産、子育てまでを地域全体で応援する取組

NL037.indd 1　2018/10/23 9:50

み
・若い世代が主体的にライフプラン実現に取り組めるよう学校や企業で健康教育を実施
・不妊治療の助成をいち早く導入。「不妊専門相談センター」を県内二か所に設置。不妊治療のためのプレマタニティ休暇取得促進に向け企業への奨励金制度も開始
・男性の育児・介護休暇取得促進のための奨励金制度、企業への「イクメンキャラバン」などで男性の育児・介護参加を促進
・県内企業の女性授業者向けに、女性のセルフケア等に関するスキルアップやキャリア形成セミナーを企画

③三重県 東京事務所

紀平勉 所長

・「みえの輝く女子プロジェクト」：県内企業に女性活躍を推進する専門アドバイザーを派遣
・男性の育児参加を促す取組で「第一回イクボス自治体ランキング」第1位を獲得
・「女性が働きやすい医療機関」を三重県が認証：離職率の低下、採用数の増加につながる

④宮城県 東京事務所

伊藤哲也 所長

・「女性のチカラを活かす企業」を認証し、紹介
・女性のキャリア・ライフプラン・家庭や職場における男女共同参画に関する研修会の実施、女性活躍促進サポーターの養成など、多様な事業を展開している
・県知事を呼びかけ人にして「みやぎイクボス同盟」を設立し官民連携での「女性活躍促進連携会議」を開催
・本年10月23・24日に全国フォーラム「WIT 2018 宮城」を開催

⑤ANA 人財戦略室 労政部

蟹江謙悟 担当部長

・ANA健康経営宣言：女性の健康増進により一層取り組む
1　知ること：女性特有のがんに関する社内セミナーや産業医との相談会を実施
2　早く気付く：健康診断に乳腺エコーを導入、子宮頸がんの郵送検診など
3　ひとりで悩まない：職場内に保健室を設置、職場に看護師を派遣して健康相談

⑥ドコモ・ヘルスケア

出井京子 取締役

・NTTドコモとオムロン・ヘルスケアの合弁会社：企業の健康経営や自治体住民の健康づくりを支援
・女性が健康管理できるアプリケーションの提供
・ヘルスリテラシー向上のための企業向けセミナー開催

⑦JALグループ

大川順子 副会長

・2017年に4年間の中期経営計画と連携して『JAL Wellness 2020』を策定：社員・会社・健保が三位一体となって、社員の健康をサポート
・女性の活躍がJALの経営戦略 ↑ 女性が健康 ↑ 男性社員の理解
・『JAL Wellness 2020』副本として『Women's Health Guide』を作成し全社員に配布。女性特有の健康課題について理解度の向上に役立てている

⑧コニカミノルタ

WHA事務局担当者が宣言内容を説明

・男女を問わず、従業員一人ひとりの心と身体の健康こそが財産であるとの認識のもと、健康第一の風土醸成を通じて健全な経営を推進し、豊かな社会の実現に貢献。特に女性特有の健康不調の防止に向けて社員セミナーの開催などに取り組んでいる

⑨この他に、宮城県大崎市も「ウィメンズ・ヘルス・アクション」を宣言しています。

関係団体および関係省庁の講演

対馬ルリ子 WHA副代表が「ウィメンズ・ヘルス・アクションDATA BOOK」を紹介し、つづいて、関係団体および関係省庁の講演が行われました。また、講演の合間には、出席された国会議員によるリレートークがありました。

①働く女性の健康調査

経済産業省　ヘルスケア産業課
西川和見 課長

・経済的な観点から職域の健康管理に取り組む＝従業員の健康に投資して労働生産性をあげよう
・健康経営銘柄の選定：健康経営に取り組む企業を顕彰
・企業の健康経営における女性特有の健康問題対策：女性の健康不調による労働損失
・働く女性の健康課題に関する実態調査→企業による3つの施策の重要性：①健康リテラシーの向上　②相談窓口の設置　③働きやすい環境・サポート

ローソン健康保険組合
髙橋恵子 事務長

・健康経営に関する実態調査への協力
・女性の検診の受診率があがらない：がん対策への偏りと月経随伴症状への認識不足
・企業と女性従業員のヘルスリテラシー向上のための調査内容

②看護師の実態調査

日本看護協会
熊谷雅美 常任理事

・看護職約166万人が就業、うち女性が約92％、平均年齢が約43歳、活動フィールドの拡大
・看護職の約52％が暴力・ハラスメントを受けたことがある（実態調査）
・「看護職の健康と安全に配慮した労働安全衛生ガイドライン」を公表
・さまざまな視点からの「ヘルシーワークプレイス（健康で安全な職場）」の実現

国会議員リレートーク その1

③女性の健康特性と課題

国立成育医療研究センター　母性内科
荒田尚子 診療部長（妊娠前の健康ケア）

・プレコンセプション・ケアに力を入れたい
・若い世代のヘルスリテラシーの向上：情報の入手・理解・評価・活用
・女性のライフサイクルと社会的役割、妊娠・出産という役割
・成育期（胎児期から妊娠出産期）の健康の重要性
・日本女性の「やせ」問題 → 低出生体重児の疾病リスク

④女性の健康政策の必要性

女性クリニックWe富山
種部恭子 院長

・男女共同参画白書平成30年版に「スポーツにおける女性の活躍」と「男女の健康支援」の特集が組まれたが、編集に関わった
・女性の健康は社会の変化の影響を受ける：月経回数の増加による健康リスク・パフォーマンスの低下、ピルの低普及率
・若年妊娠・出産と貧困と暴力の連鎖：保健相談、社会支援
・女性の健康向上に必要なライフコースアプローチの展開：生涯を見すえた女性の健康への投資の必要性

⑤政治分野の男女共同参画推進法

内閣府

・「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」の概要説明
日本の国会議員の女性議員の比率が低い（世界で160位：2018年5月）
議員選挙における男女の候補者数ができるかぎり均等となるよう目指す
多様な民意を政策に反映させるため重要
・内閣府と総務省は、この法律の情報提供・啓

NL037.indd 2　2018/10/23 9:50

発に努める
・政治分野の女性参画に向けて情報提供

その2

総務省自治行政局選挙部管理課
小谷克志 選挙管理官
・主催者教育に関する取組みにおいて力を入れている高校生向けの副教材の作成と選挙管理委員会が実施する出前授業について説明

総務省自治行政局行政課
藤井延之 課長補佐
・女性の声の自治体行政への反映、女性地域リーダーの育成などを目的とした各自治体における女性模擬議会の取組等について情報提供

厚生労働省健康局健康課
正林督章 課長
・女性の健康推進室の役割について概説
・各ライフステージにおける女性の健康に関する主な施策
・女性の健康の包括的支援における研究事業の位置づけ、WISEについて
・女性の健康推進室ヘルスケアラボ（ウェブサイト）の設立
・キャンペーンの実施：女性の健康週間など

文部科学省スポーツ庁健康スポーツ課
松崎智一 課長補佐
・若い女性のスポーツ人口拡大と健康の向上への取り組み

その3

橋本聖子 参議院議員
現職の参議院議員で出産したのは、18年前、私が初めてだった。女性が働く場として、国会はまだまだ遅れている。アスリートであった当時も、女性の健康管理は配慮されていなかった。今は改善されつつあるが、日本はまだまだ遅れている。多角的な視点から女性特有の問題に取り組み、豊かな社会を作り上げていくことが重要だ。

今井絵理子 参議院議員
12歳から芸能界で活動をしてきた。自身の健康管理が難しいほど大忙しで、女性特有の健康問題を抱え悩んでいる人をたくさん見てきた。そういう世界に生きてきたので、女性がもっと元気になり、もっと輝ける社会を実現していきたい。

田畑裕明 衆議院議員
今、厚生労働大臣政務官を拝命しており、女性の健康問題に対してしっかり働いてまいりたい。今国会（集会の時点）で、働き方改革の関連法案、健康増進法をしっかり成立させたい。

その4

山本香苗 参議院議員
厚生労働委員会に所属しており、女性の健康支援が大事だと痛感している。女性の活躍と健康はパッケージで考えるべきと女性の健康包括支援の法案を出してきたがまだ成立していない。女性の健康支援の必要性について超党派で声を上げていく。

薬師寺道代 参議院議員
女性の健康支援については数年議論を続けているが、法案がなかなか通らないことに忸怩たる思いを抱いている。また、産業医としても、健康経営のなかで女性の働き方をバックアップしていきたい。

石井苗子 参議院議員
看護師・保健師でもあり、非常勤で仕事をしている。男女比率、女性が働きやすい環境、女性の健康支援：この3つの向上を目指す。女性の労働環境を改善するためには、女性が率先してリーダーシップを発揮し、環境を変えていく必要がある。

森まさこ 参議院議員
女性の健康手帳、女性の健康の包括支援法案に関わってきたが、まだ道半ばの状況。日本の女性は世界一睡眠時間が少なく、健康寿命も短い。出生率を上げるためにも、プレコンセプションケアなど女性の健康支援に全力で取り組みたい。

とかしきなおみ 衆議院議員
女性特有の諸問題に正しく対処するための情報が圧倒的に足りない。悩んでいる女性が有用な情報にアクセスできるような制度設計をしていきたい。

自見はなこ 参議院議員
妊娠期から子育てまでの切れ目のない支援＝日本版ネウボアを確立したい。また、女性支援のために女性の政治参加をもっと促し、ポピュレーションアプローチで面として届く政治を行いたい。

会場の参加者からの意見

ソチオリンピック、フィギュアスケート代表
高橋成美さん
小学校・中学校は中国で過ごし、その後カナダ人とペアを組んだので5年間カナダで過ごし、オリンピックを目指した5年間はアメリカのデトロイトで過ごした。今は帰国して大学にいる。この間、女性として困ったことはほとんどなかったが、周りでホルモンバランスの関係で競技のパフォーマンスに影響が出て悩んだりすることは感じていた。今日のお話を聞いて、そういうことがないようにサポートする環境づくりは大切だと思った。

キャンサー・ソリューションズ代表
桜井なおみさん
CSR（キャンサー・サバイバーリクルート）プロジェクトという一般社団法人を立ち上げた。30代のとき乳がんを発症したが、今日のお話で、健康支援が広がってきていることを伺い心強く思った。しかし、女性のがん患者は非正規雇用の方が多いので、早期離職する方が非常に多い。その後は、経済的困窮に遭遇している人もいる。がんになったことは不運だが、これを不幸にしてはいけない。そのためには、ソーシャルサポートが非常に重要だ。さらに一歩進んだ健康経営、健康サポートをお願いしたい。

マンガ家 **さかもと未明**さん
このような会議がもたれるのは、結局、女性が働くことに障がいが多いということなのだろう。そのために、いろいろサポートすることはとてもありがたいことだと思う。一方で、女性の晩婚化、少子化の問題もある。いったん障がいを抱えると、なかなかサポートを得られない現実もある。子供を産み・育て、そのうえでもっと働けというのは、今の社会の仕組みでは無理があるのではないか。女性のライフプランが優しくないと思う。

そのほかの方々の発言

・低体温の人が増えている。病院で飲みきれないほど薬を渡される。このようなことを改善してほしい。
・いろいろな人が性の健康を守れる環境があってほしい。ピル以外の選択肢があることも情報提供してほしい。
・女性の健康に関する情報提供が少ない。また、健康指導する者が個々で動いており、連携がない。
・流産、人工妊娠中絶を経験した女性に対するサポートがあまりに不足していると感じている。
・性暴力被害への対応が不十分。緊急避妊用ピルが薬局で入手できるようにしたい。
・地方自治体によって、難病の治療が受けられない場合があるのはおかしい。
・人工妊娠中絶は、内服薬によるなど、安全な医療を検討すべき。心のケアも受けられない。
・日本の社会に、暴力・性虐待・性暴力が蔓延している。これらは、女性の健康の問題と密着しており、福祉と医療が連携して取り組んでいかなければならない。ぜひ女性の健康支援のための法律を成立させてほしい。

NL037.indd 3 2018/10/23 9:50

女性の健康学校 ジョイラボ

C-7 心理と行動（断捨離）（5月25日）

断捨離®でお部屋の中にあるモノに隠れた心理を紐解く

日本橋断捨離®会代表　断捨離®トレーナー
麻野ゆかり

2012年から断捨離®トレーナーとして一般の方や企業の皆様に断捨離®をお伝えしてきました。

セミナーの他に自宅を訪問させていただいた中で、病気や対人関係の問題、いろんな事柄の全ての要因が家の中に隠れているという事を具体的な事例を元に断捨離®を分り易くお伝えさせていただきました。

ご質問などをお聞きしているとお話させていただいた内容を皆様かなり理解されていると感じました。

どこから手をつけたらよいかわからない方、身体がなかなか動けなかった方もセミナー中のワークでなぜ今まで出来なかったのかが分り、気がつかれて、「すぐに家に帰って断捨離したい！」というお声を今回のセミナーでも多くいただきました。

お仕事をされている方やこれからお仕事をされる方にも仕事の効率や人間関係、コミュニケーションなど、より良い方向へいけるような気がいたしました。

今回の断捨離セミナーに参加されて皆様大変喜んでいただいたようなので、皆様のそれぞれの想いにお役にたてたのではないかと感じました。

このような機会をいただき、ご参加くださいました皆様、スタッフの皆様に心より感謝申し上げます。

A-5 思春期・性感染症（5月27日）

性教育バッシングを追い風に ～生きるための教育、性教育！ライフスキル講座～

埼玉医科大学　社会医学・産婦人科
髙橋幸子

「性教育バッシングを追い風に～生きるための教育、性教育！ライフスキル講座～」としてお話させていただきました。2017年は講演を80回行っています。小学校では小4対象にプライベートゾーンの話をします。ユネスコの「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」では、プライベートゾーンは5～8歳で教えるべきとされています。中学校の学習指導要領では「受精に至るまでの話は扱わない」つまり、性交については語れないという状況です。しかし中3保健体育教科書には「性感染症の予防について」コンドームを教えることになっています。学校の先生方は「教え方を教わっていない」状況です。「恥ずかしがっている」人から習うと「恥ずかしい」と感じてしまうのは当たり前です。私たち外部講師は専門家として、恥ずかしがることなく生徒たちにストレートに性について語り掛けることができる立場です。外部講師には学習指導要領による縛りもありません。中・高生に伝えたいことは科学的な知識だけではありません。私がどうして性について語りたいと思っているのか、私が関わってきた患者さんに何が起こって、彼女がどう感じたのか、そのような語り掛けをすることで、「自分の頭で」考える時間を持ってもらいたいと思います。また、同時進行で「同意」について社会の認識を変えていく事も必要です。実は一番難しいのは学校に入り込むことです。秘訣は「保護者からの突き上げ」です。そのためには保護者向けの性教育も大切だと考えています。

B-5 女性の検診（6月13日）

新たながん対策と今後の方向性

公益社団法人日本臓器移植ネットワーク
あっせん事業部長
林　昇甫

がん対策基本法は数多くのがん患者やご家族の声を受け、平成19年に施行された法律です。法に基づいて策定されたがん対策推進基本計画に則り、医療現場におけるがん対策は地域のがん拠点病院を中心に大きく変わってきています。

がん医療のあるべき姿には7つの目指すべき姿があり、①がんにならない②早く見つける③どの世代でも診断治療が受けられ④どの地域でも診断治療が受けられること。また、⑤痛みなどの症状がとれ⑥不安や苦しみから解放され、⑦もとの生活が送れることにあります。

基本計画は現在第3期に入ってますが、基本的にはどの項目もこのあるべき姿を目指すためにまとめられています。だからこそ私達は基本計画が立案されるプロセスを知り、これに基づく様々な取り組みを知る必要があります。今回、皆さんにとってがん対策がより身近なものとして考えるよい機会となるよう、日本におけるがん対策の歴史を紐解きつつ、第3期基本計画の策定プロセスや行政施策の立案や予算化のプロセスを医療現場の視点や行政の視点から検証・解説致しました。また、女性のがん対策を考える全国キャラバン等を通し、これまで軽視されてきた女性独自の目線から見えてくるがん対策の必要性や今後の方向性についてお示し致しました。

A-4 メンタルヘルス（7月1日）

女性のメンタルヘルスとトラウマ ～赤ずきんとオオカミに学ぶトラウマ・ケア～

こころとからだ・光の花クリニック院長
スペース白い花主宰
精神科医、臨床心理士
白川美也子

女性のメンタルヘルスには、ライフステージの変化に伴い、さまざまな課題がありますが、かなり多くのものがストレスやトラウマと関係しています。

日本国内における性的虐待、性暴力認知件数、ドメスティックヴァイオレンス（DV）の発生率（以下）については以下の通り。

●性的虐待

39・4％の女性、10・0％の男性が18歳までに性的虐待を受けたという統計がある（1998年子どもと家族の心と健康調査）

児童相談所の相談件数は1500件、しかし、その数倍の暗数がある

家庭内性虐待より家庭外性虐待が多い。米国では1：3の割合。

●性暴力の認知件数

NL037.indd 4　2018/10/23 9:50

強姦１１６７件
強制わいせつ女性６５９６件、男性１５９例…いずれも２０１５年

●ドメスティックヴァイオレンス

女性３人に１人が生涯に一度パートナーからの暴力を受けている

女性10人に１人がパートナーから複数回の暴力を受けている

ＤＶのある家庭での性交は、逃れたあとでレイプであったと感じられるようになることが多いし、実際の暴行を伴う性暴力も多い

児への性的虐待を伴う頻度が高い（統計はないが…）

こうした現状を受け、自著「赤ずきんとオオカミのトラウマ・ケアー自分を愛する力を取り戻す〔心理教育〕の本」を下敷きに、ストレスとトラウマの違い、単回性トラウマの影響であるＰＴＳＤ、ＤＶや虐待などによる複雑性ＰＴＳＤなどを説明し、なかでも女性に多いトラウマである性暴力や性的虐待やＤＶなどによる後遺症に焦点をあて、現状と対策法の解説をいたしました。

女性のライフステージ（児童期、仕事期、子育て期、更年期など）におけるさまざまな困難の理解を促し、皆様のセルフケアの一助となれば幸いです。

B-8 禁煙（7月11日）

オリンピックにむけて変わるたばこ対策

～加熱式タバコからタフスモーカー攻略法まで～

内科医師　医学博士
高橋裕子

オリンピックを控え、受動喫煙対策が加速しています。今回は、受動喫煙や禁煙治療について基礎から応用まで、さらには最近大流行の加熱式タバコ（アイコスなど）についてもお伝えしました。

女性の禁煙は男性より困難であるといわれます。実際、喫煙者の中には、絶対に禁煙しないと言い張る人たちがいます。そうした人たちを「タフスモーカー」あるいは「岩盤層」と呼んでいます。

「ああいえばこういう」「せっかく禁煙の話をしたのに反撃してくる」などなど、診察室でも、健診でも「困りもの」の人たちです。こういう人たちに対して「魔法のようにころりと相手を変える言葉があれば」と思うのも無理はありませんが、残念ながら魔法の言葉はありません。しなしながら、この手順で話をすると面白いほどうまくゆくという手順（４Ａ＋Ａ）について解説しました。

（1）喫煙習慣について質問（Ａｓｋ）
（2）習慣改善必要性の助言（Ａｄｖｉｃｅ）
（3）禁煙に対する意思確認（Ａｓｓｅｓｓ）
（4）習慣改善の支援（Ａｓｓｉｓｔ）
（5）習慣維持へのサポート（Ａｒｒａｎｇｅ）

とても簡単な手順で、一度覚えてしまえば禁煙のみならずいろいろな場面で応用可能です。日頃の禁煙指導に是非取り込んでみてください。

B-1 性差医療（7月22日）

病気における男女の差

性差と年齢差を考慮した患者に寄り添う医療

財団法人 野中東皓会 静風荘病院 特別顧問
天野恵子

①日本における性差医学・医療の誕生から現在まで：２００１年鹿児島大学、千葉県立東金病院に性差医療の実践の場としての女性外来を開設。２００３年、性差医療・医学研究会を立ち上げ。性差を注目する動きは大きくなり、研究会は２００８年に日本性差医学医療学会に発展。２０１７年にはThe 8th Congress of the International Society for Gender Medicineが仙台で開催された。理事長は東北大学医学部循環器内科　下川宏明教授。

②女性における脂質異常症をどう考えどう対処するか：日本動脈硬化学会による「動脈硬化性疾患予防ガイドライン　２０１７年版」に吹田スコアによる冠動脈疾患発症予測モデルが掲載され、女性に対して行われていた過剰なスタチン投与は是正されつつある。

③微小血管狭心症とは：更年期前後の女性10人に１人の割合で発症する５００μｍ以下の冠動脈微小血管の異常によって生じる狭心症。２０１０年、日本循環器学会による「循環器分野における性差医療ガイドライン」に掲載されるも、いまだ認知度が低い。

④神経難病における和温療法：重症心不全の治療として開発された和温療法は神経難病にも有効で、現在治療法が無いとされる慢性疲労症候群／筋痛性脳脊髄炎、パーキンソン病、多系統萎縮症などにも効果を示している。

B-10 産前・産後ケア（8月26日）

赤ちゃんと私

妊娠前・妊娠中・妊娠後を笑顔で過ごすために―自分で自分をデザインする―

東邦大学医療センター大森病院心療内科
聖路加国際病院　女性総合診療部
小野陽子

妊産婦死亡率は飛躍的に改善しており、近年ではその点にとどまらない様々なケアが注目されています。今回のジョイラボでは、妊娠前・妊娠中・産後に大別し、それぞれの時期に注目すべき内容を取り入れました。

妊娠・分娩前としては、女性やカップルが自分たちの生活や健康に向き合うプレコンセプションケア（Preconception care）、出生前診断／遺伝カウンセリングを扱いました。妊娠中のケアとして、周産期メンタルヘルスケアの再周知、社会支援制度の再確認を行いました。産後ケアとして、次回妊娠のタイミング（IPI：interpregnancy interval）、妊娠糖尿病ならびに妊娠高血圧症候群患者の将来の生活習慣病の発症リスクを文献的に考察し、加齢と共に機能低下する女性下部尿路機能障害、骨盤臓器脱について取り上げました。

妊娠・出産をめぐる問題は、当事者の中で抱え込みやすいが故に、如何に早く本人が気づくかが重要な問題となります。また、産後の母体ケアは、児のことが主体になりやすい中で後手にまわることも多いため本人主体の気付きは難しく、家族・社会といった周囲からの声掛け、負担の軽減が重要になってきます。

医学の進歩により、高齢での出産の選択が可能となりましたが、〝孤育て〟になりやすい環境への整備はまだまだ不十分であると言えます。出産する本人がまず自身の置かれている負担状況に気づくよう促すケア、そして周囲も配慮していくケアこそ、現代の子育てを笑顔で行うために必要と考えます。

ジョイラボ委員会より

来年度カリキュラムもより充実したものになります。ご参加お待ちしています！
講座の確認・お申し込みはこちら

http://cnet.gr.jp/joylab/

NL037.indd 5 2018/10/23 9:50

●次世代委員会報告

京都大学医学部附属病院産婦人科特定研究員
池田裕美枝

●8月12日に次世代委員会オフ会+現理事の先生方との話し合いをおこないました。

・次世代委員会の今後の方向性として、①医療者同士の連携強化、②社会啓発＜企業とのコラボレーションを強化、③後進育成システムの構築、を掲げました。

・現理事の先生方からの理事業務引き継ぎには、あと数年の猶予をいただくことになりました。

●web勉強会として、以下を行いました。

・7月21日　6時半～　プレコンセプション・ケアセンターの取り組みについて
国立成育医療研究センター母性内科
金子佳代子先生

・9月12日　20時半～　健康デザイン論
株式会社電通　ストラテジスト　コミュニケーション・デザイナー／京都大学大学院医学研究科社会健康医学系 MPH
戒田信賢さん

●今後のweb勉強会の予定は以下のようになっています。参加希望の方は、FBページ「女性医療ネットワーク次世代委員会」にアクセスしてください。

・2018年10月27日土曜朝6時～
東北大学病院 産婦人科 志賀尚美先生
「性分化疾患ってよくワカラナイ…って思っていませんか?」

・2018年11月14日水曜日21時～
ココカラウィメンズクリニック
伊藤加奈子先生
「婦人科医がかかわる性的搾取再発予防の取り組み～思春期外来からみえる子供たちの現状～」

・2018年12月5日水曜日21時～
三重大学医学部附属病院 総合診療科
田口智博先生
「コーチングセミナー～聴き方訊き方次第で診療・教育・組織が変わる～」

・2019年1月16日水曜日21時～
国立成育医療研究センター産科
前田裕斗先生
「手軽にできてタメになる! letter to the editor の書き方」

・2019年2月2日朝18時30分～
大阪医科大学附属病院 看護部 宮田郁先生
「周産期のメンタルヘルス」(仮)

●マンマチアー委員会

乳房の健康を応援する会
2018年6～9月の活動について

乳がんサバイバー、女性医療ジャーナリスト
増田美加

6月20日（水）

第95回は、聖路加国際病院腫瘍内科医（がん薬物療法専門医、乳腺専門医）の北野敦子先生をお招きし、「若い年代のがん AYA（アヤ）世代が抱える〝悩み〟と〝希望〟」。AYAとは、Adolescent（思春期）and Young Adult（若年成人）の略で、15歳から39歳の若い年代でがんに罹患した、あるいは小児がん（15歳未満で罹患）後の39歳までを指します。AYA世代の研究に関わり若年性乳がんの会「KINP（GNIP）」をサポートする北野先生。AYA世代が直面する妊孕性（妊娠能力）や医療保証などのさまざまな問題についても取り組まれています。AYA世代のがんは少ないとは言っても増えていて、20代後半～39歳で罹患する人も珍しくなく、最近はAYA世代が自分の病気を公表。自分たちでサポートグループを立ち上げ、全国にいる仲間と情報を共有し、社会を動かそうという活動も広がっています。社会全体で支えていくためには、まずAYA世代のことを私たちが知ることが大切。「KINP（GNIP）」代表の御舩美絵さんにもお越しいただきました。

7月18日（水）

第96回は、「人の心をつかむ話し方のコツ」と題して、ルネッサンス・アイズ取締役副社長、加藤恵美さんをお招きしました。著書『一流のプロ講師が実践している話し方』が話題に。加藤さんは、岸見一郎氏、佐藤伝氏、高野登氏、本田健氏…といった著名な講演家をプロデュース。900名を超える一流の講師陣による講演、研修を年間1000本以上コーディネート。日本で一番多く、話し上手な人の話を聞いている方の一人。「うまくいっている人の真似をするだけだから、話下手でも、緊張癖がある人でも大丈夫」と言います。〝話し方を意識するだけで結果は大きく変わる〟〝会話の9割は事前準備で決まる〟〝話下手でも思いが伝わる話の組み立て方〟〝プロが実践している相手の心つかむコツ〟を教えてくれました。

8月15日（水）

第97回は、国立がん研究センターがん対策情報センター長の若尾文彦先生から「正しいがん情報の探し方 ～自分らしい がん治療・療養生活のために」。自分や家族、親しい人にがんが見つかったとき、真っ先にするのは、がんの情報を集めること。しかし、新薬の開発は日進月歩で、この10年で治療法から、患者支援の法的整備まで、がんを取り巻く環境は激変。自分らしい治療を受け、暮らしていくには、正しい情報へアクセスし、選び取ることが不可欠。ところがガン情報が溢れすぎ、「信頼に値しない」「一見、夢のような治療法」など、選んではいけない情報も数多くあり、何を信じていいかわからない人が大勢いるのも現実。一般向けで、しっかりしたデータやエビデンスに基づき信頼でき、国内最大の情報量とアクセス数を誇るのが、国立がん研究センター「がん情報サービス」。その全てを熟知する若尾先生に、正しい情報へ辿り着くためのポイント、誤解を受けやすい情報の見分け方をお話いただきました。

9月19日（水）

第98回は、当法人理事で産婦人科医、心療内科医でもある小野陽子先生（東邦大学医療センター大森病院心療内科）に、「女性特有のメンタルトラブル ～その現状と解決策」をお話しいただきました。心の病気は、環境の変化や育った環境、人間関係など、さまざまな要因によって起こります。誰もが平等にメンタルの病気にかかる可能性はあるのです。特に、女性は男性の2倍、メンタルの不調が多く、女性ホルモンがメンタルバランスと密接にかかわっています。月経の前後に気持ちが揺れ動きやすくなるのはそのためです。女性のメンタルトラブルは、人生の節目に多く、就職、結婚、出産、更年期、がんなどの大きな病気をきっかけに発症することも。また、乳がんのホルモン療法の副作用によるメンタルの不調（うつ、不眠ほか）の悩みも少なくありません。乳がん世代と言われる更年期前後の女性に多いメンタルトラブルの現状と解決策、自分でできるメンタルケアについてもお話しいただきました。質問も活発で女性のメンタルヘルスへの理解が深まりました。

そして、11月21日（水）18時半～、マンマチアー100回記念〝これまでありがとう！ みなさまへの謝恩の会〟を銀座8丁目の素敵なスペースで行います。10月にご案内しますのでぜひお越しください。

●骨盤底委員会

医療法人 LEADING GIRLS
女性医療クリニック LUNA グループ
理事長・CEO
関口由紀

2月25日に、ジョイラボで骨盤底に関するレクチャーを行った。

NL037.indd 6　2018/10/23 9:50

Upcoming events

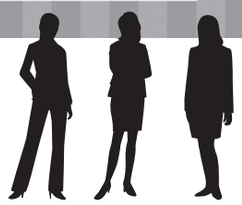
これからの予定

来る11月3日（土）、愛知県産業労働センターウィンク愛知にて、第47回女性医療ネットワーク 女性の健康シンポジウム『つながり、伝え、変えていこう女性の未来』が開催されます。女性の健康、社会との関連をさらに掘り下げ、未来につなげていくために私たちにできることを議論するシンポジウムになればと考えています。どなたさまも奮ってご参加ください。

参加のお申し込みは HP（http://cnet.gr.jp/181103symposium/）もしくはチラシ内の QR コードからフォームにアクセスし、必要情報をご記入ください。その他詳細についてはチラシをご確認ください。

女性医療ネットワーク
第 47 回
女性の健康シンポジウム

つながり、伝え、変えていこう女性の未来



11月3日（土）

会場　愛知県産業労働センター ウィンク愛知　特別会議室 A
参加費　一般 2,000 円、学生無料

13：15 〜 16：45（開場 13：00）

お申し込みは、
http://cnet.gr.jp/181103 symposium/　または　右の QR コードから

NL037.indd 7 2018/10/23 9:50

協力企業紹介㉔

ジェクス株式会社　開発マーケティング本部 企画部　井上 貴光

性から生まで幅広くサポートするユニークなメーカーです

ジェクス株式会社は、「愛のそばに いつも」をテーマに、人生を通した様々な愛をサポートさせていただいている総合医療品メーカーです。

大きくは、哺乳瓶などの育児用品・コンドームを中心とした衛生用品に分かれますが、これらを同時に扱うところに希少な企業色があると自負しております。

医療機器であるコンドームでは、塗布するゼリー剤に独自技術があります。代表作であるグラマラスバタフライは、使用時に痛みや違和感が伴う女性の意見から生まれたものですが、実現までには使用する成分が安全か、それで期待する効果が得られるか、生産が可能か等、いくつもの試行錯誤と試験が必要になります。このように医療機器のゼリーで得られた安全性や生産ノウハウをもとに、潤滑ゼリー「リューブゼリー」や超音波診断用の潤滑ゼリー、ボディローションなどに展開しております。

メーカーからすれば、粘膜に触れるという事はかなりハードルの高い内容です。しかしながら、世の中には安全性試験や消費者サポートが無いボディローションや潤滑ゼリーがあふれています。

相談しづらい、真実が分かりにくい、快楽が優先されがちな性において、安心できる製品と情報を提供したいと考えております。

その取り組みの1つとして、日本家族計画協会と実施している「【ジェクス】ジャパン・セックスサーベイ」の調査があります。噂ではなく本音を知り、教育や性に関わる方々に提供しております。

また、潤滑材などは粘膜と粘膜、粘膜と肌、肌同士、肌と器具など、使用するシーンや部位別、目的別に綿密なこだわりある設計と、お客様や医療施設での実使用評価を行います。

育児用品では、哺乳瓶や乳首からの成形品、素材が重要となる母乳パッドがメインですが、一般生活に必要なあらゆるジャンルが存在します。コンドーム、ゼリーや液剤関係、哺乳瓶、母乳パッドなどは兵庫県篠山市にある２つの自社工場で製造していますが、外部委託も含めると、ドラッグで販売されている形態のほとんどを具現化できるといえ、その視点と幅広い経験から柔軟性に富んだものづくりに自信があります。

本会では、女性医療の現場の声を取り入れ、消費者の本音と共に性交痛やFSD、医療現場に役立つ製品の開発が出来ればと考えております。

何卒宜しくお願い申し上げます。

協力企業紹介㉕

株式会社医療システム研究所　治験支援部　本村 義一

健康関連企業における研究開発の支援を通じて人々の健康維持・増進に寄与することを使命としています

女性医療ネットワークに入会させていただいております、株式会社医療システム研究所と申します。このたびは弊社のご紹介の機会をいただき、誠にありがとうございます。

株式会社医療システム研究所は、SMO（治験施設支援機関）の草分けの１社として、1999 年 4 月に開発業務受託機関である株式会社エスアールディの SMO 部門を分社化して設立されました。設立以来、第Ⅰ相試験から製造販売後臨床試験、生物学的同等性試験や、臨床研究など、多くの医療機関様で支援を重ねさせていただき、設立 20 周年を迎えることができました。その間、対応可能な疾患領域を徐々に広げ、現在では幅広い疾患に対応できるSMOとして更なる成長を続けております。また、関東圏（東京、横浜、船橋、前橋）及び関西圏（大阪、姫路）に密着し、品質重視を理念に掲げて着実な成長を続けてきた結果、多くの治験依頼者様より評価をいただくことができ、今日に至っております。

弊社では、医療機関様において、治験を支援する治験コーディネーター（CRC）が約 200 名おります。具体的には、治験に参加いただいた患者様への同意説明補助や来院・検査のスケジュール管理、医療機関の関連部署との調整、症例報告書作成支援など、治験の補助業務全般を行います。治験に参加いただく被験者の方のケア・サポート、治験を実施する先生方、スタッフの皆様方と深いコミュニケーションのもと、多くの業務をサポートさせていただいております。治験環境や製薬企業の開発動向は時代と共に変化しています。そのニーズに合った医療機関様と提携させていただき、当社の財産である社員の教育研修体制を充実させることにより、質の高い治験支援体制の維持・発展を目指し、これからも成長し続けていきたいと考えております。弊社 CRC の 8 割が女性でございます。女性医療ネットワークの皆様からご指導賜り、より女性が働きやすい会社にしていきたい所存でございます。今後とも尚一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

● 事務所移転のおしらせ

Information

2018年９月１日より事務局が移転しました。
新しい連絡先は以下の通りです。

◆ NPO 法人女性医療ネットワーク事務局
〒 113-0033
東京都文京区本郷 4-1-5 石渡ビル 5F 株式会社アクセライト内
TEL：03-6801-6193　FAX：03-6801-6091
E-mail：info@cnet.gr.jp

※メールアドレスや、メーリングリストのアドレスに変更はありません。

なお、旧番号（TEL：03-3538-0250 FAX：03-3538-1019）はご利用になれませんのでご注意ください。

会員の皆様へのサービスのさらなる向上のため、事務局一同邁進して参る所存です。お気づきの点など、お気軽にお問い合わせください。今後とも女性医療ネットワークへのご支援をよろしくお願いいたします。

NL037.indd 8　2018/10/23 9:50